



横浜市立本町小学校 学校運営協議会【記録】

本町小学校学校運営協議会だより

令和 8 年度 横浜市立本町小学校 第 2 回学校運営協議会が開催されました。

➤ 学校ホームページ等での公開版では、個人名の表記をいたしません。

1 日 時 令和 8 年 9 月 1 1 日(金) 10:10～12:00

2 場 所 本町小学校 第 2 音楽室 国際教室・個別支援学級（授業参観）

3 参加者

学校運営協議会 10 名 <欠席：4 名>

事務局 （副校長・教務主任・児童支援専任）

4 内 容

（1）開会挨拶

（2）学校長挨拶

（3）本日の流れ説明（教務主任）

本校の特別支援教育の実態を理解してもらうため、国際教室と個別支援学級の授業を参観していただく。

（4）授業見学 2 グループに分かれて学習室と国際教室を見学。（10 時 25 分～11 時 10 分）

（5）意見交換

①学校長より、本校の特別支援の実態について説明

- ・現在の学校の状況を知っていただき、今後の学校運営についてアイデアやご助言をいただきたい。
- ・本町小学校は児童数が増加している。（令和 4 年度から 65 人増加）
- ・外国籍児童も合わせて増加。（令和 4 年度 65 人→今年度 101 人）
- ・学習室児童も増加。（令和 4 年度 23 人→今年度 55 人）

支援の必要な児童が昔より増えているわけではない。個別支援級を選択する保護者（児童）が増えている。昔の名称は特殊学級など、以前は少人数指導に抵抗がある保護者もいたが、今はそうではなくなっている。（この 5 年～10 年で保護者の理解、ニーズが変わった）

- ・学習室の学級数は 8。配当職員は 8 人。国際教室の配当職員は 2 人、加配の職員が 2 人で 4 人体制。これは十分な数ではなく、学校独自で非常勤職員や他配当の職員を充当して、支援をしている。
- ・学習室の子ども達も国際教室の子ども達も困り感がある。それを個別に支援するために特別支援教育がある。学習指導要領の次の改訂のキーワードは「多様性」である。今は、学習室や外国籍の子たちだけでなく、様々な考え、個性をもっている子達がいる。そこにどのようにアプローチ、支援をしていくかが大変だが大事。
- ・しばらく全校児童数は減らないという見立て。（人口推移と外国籍児童の転入状況等から見て）
- ・登下校の緊急時対応マニュアルが変わった。状況によっては、前日に教育委員会が休校の判断をすることがある。昔は雨では休校にならなかったが、今は危険ということで大雨でも休校になる。



②委員の方より

- ・学習室では4、5人の子ども達に1人の先生が丁寧に指導をしていた。ユーモアのある授業で子ども達はとても楽しそうであった。
- ・外国籍の児童がとても増えていると感じた。自分が以前関わった子は、入学の時は全く喋れなかったが、卒業の時には日本語を普通に話せるようになっていた。
- ・先生達はとても大変だと思う、身体に気をつけて頑張してほしい。
- ・わいわい教室では、タブレットを使用するなどの工夫や、反復した支援を丁寧に続けているのを見て、素晴らしいと感じた。
- ・学習室では、一人ひとりが楽しそうに学習をしていた。
- ・地域としては、運動会やウォークラリーなどの地域行事にぜひ、外国籍や学習室の児童にも参加してほしい。
- ・先生方の個別の対応が素晴らしい。自分も子どもの頃に戻り指導を受けたいと感じた。
- ・児童を飽きさせない支援がされており、児童がのびのびと生活しているのが印象に残った。
- ・わいわい教室の顔写真を見ると、子ども達がみんな明るい顔で写っていた。
- ・日本語が分からない子ども達の支援はとても大変だと思う。また、高学年になり、日本にいきなり来るのは、やはり子ども達がかわいそうだなと感じる。
- ・学習室は、以前はもっとにぎやかなイメージだった。今日見て、一人ひとりが自分たちのペースでしっかりと学習していた。
- ・学習室の子ども達は、頭を使いながら身体も動かし、とても良い学習をしていた。先生達の工夫も素晴らしかった。
- ・今年度は体力テストの手伝いを、ガス灯倶楽部として参加した。来年度はスポーツ推進委員の方にも協力してもらおうと良いと思う。
- ・学習室もわいわい教室の児童も、先生方が丁寧に対応されているのが良いと感じた。
- ・キッズにも学習室やわいわい教室の児童がたくさん来ている。利用人数も増えている。キッズには、個別支援学級やわいわい教室のような個別の教室や支援は無いので、対応に悩むこともある。
- ・学校との情報交換を今後もさせてもらい、支援の必要な子達への対応を丁寧にしていきたい。
- ・学習室やわいわい教室の先生方の子ども達への関わりが素晴らしい。
- ・運動会は現在、「演技」と「走競技」のみ。多様性ということを考え、今後は他の特技をもっている子が活かせるものがプログラムの中にあると良いと感じた。
- ・学習室もわいわい教室も雰囲気がとても明るいと感じた。
- ・「多様性」への支援は本当に難しいと思う。それは保護者にも言えることで、児童数が増えると当然保護者数も増える。イベントの中でトラブルが生じたことも過去にあった。学校をしっかりとサポートしていきたい。
- ・学習室児童は10年前より、倍以上に増えている。
- ・一人ひとりに応じた指導をしている先生を見て、素晴らしいと感じた。
- ・普段から、一般級の先生が個別支援級や国際教室の支援の仕方や児童の様子を見て、自分の学級の支援に活かすことが大切だと感じた。

(6) 事務連絡・閉会の挨拶(教務主任)

次回 第3回学校運営協議会 10月23日(金) 15時45分～

全教職員とディスカッション

テーマは、「本町小学校に通う児童のよりよい学びと成長のために」